だんないの道

第 30 号

2017 年 5 月 3 日発行
発行者：NPO 法人 CIL だんない
代表者：美濃部裕道
連絡先：〒529－0423 滋賀県長浜市木之本町千田６８１番４
TEL　：０７４９－５０－３６３９
E-mail：dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・P1　そうはさせないために・・・・・・・・・・・・・P2
ジコジツゲン！・・・・・・・・・・・・・・・・・P３　みんなと一緒に自分らしく・・・・・・・・・・P4
活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5　コラム　ヨリの雑記帳・・・・・・・・・・・・・P7

代表あいさつ

2017 年度が幕を開け、１ヶ月となりました。満開だった桜も今では鮮やかな緑に色づき、だんない周辺の山々は私の好きな若葉のグラデーション色に染まっています。私は毎朝、それを見ながら、だんないモードに気分をシフトチェンジしています。嵐のような日常を前に、静かなひとときで頭の中を整理する、私にとって大切な時間です。

世間はゴールデンウィーク真っ最中！でも、だんないでは今月開催の周年シンポジウムや定期総会の準備に追われています。資料作りや広報活動に全力を注いでいます。３０日に開催いたします定期総会の詳細につきましては、会員の皆様に後日ご案内させていただきます。

今回は、改めて６周年記念シンポジウムについて広報させていただきます。５月１３日１３時から、「セミナーカルチャーセンター 臨湖」におきまして、第６回ＣＩＬだんない記念シンポジウム「オカネの無駄！？それでも地域で生きたいんや！」を開催します。兵庫県西宮市にある「自立生活センターメインストリーム協会」副代表の藤原勝也氏から基調講演をいただき、重度障害者の自立生活について考えます。その後、パネルディスカッションに入り、障害者の地域生活について深めていく予定です。

相模原事件や障害者差別解消法施行という大きな出来事から一年が経過するタイミングで、このテーマを湖北地域で多くの方々と考え合うことは、とても意義深いことだと思います。季候も良くて行楽シーズンの最中ではありますが、ぜひとも皆さまお誘い合わせの上、お越しくださいますようよろしくお願いいたします。

いま、北からはミサイルが飛んできたり、ある大国では国境にカベを建てようとしたり、ある学校は小さな子どもに万歳三唱させたり、霞ヶ関では大臣が心ない発言で辞任したり…。なんか、おかしいです。

今後、精神保健福祉法の改正により、精神障害者の措置入院や退院後における監視の強化が予想されています。一方、障害者基本法の３年の見直しや、基本計画の改定に向けた動きが本格化する年でもあります。滋賀県では、障害者差別解消条例の中身についての検討段階に入ります。

このようなとても重い課題が山のようにある中で、だんないとして何ができるのか。消化することさえも難しい課題ばかりで、考えることもしたくなくなる今。それでも一歩一歩、私たちができることを取り組み続けていきたいです。今年度も、よろしくお願いします。

今、改めて…
「だ」妥協はしたくない
「ん」簡単じゃないのはわかってる
「な」仲間とともに
「い」いけば必ず変えられる！
（だんない永久スローガン）

美濃部　裕道

そうはさせないために

小里　和也

障害者差別解消法がスタートして、１年が経ちました。差別解消法のスタートにあたり、僕はだんないフェイスブックにて、差別解消法の思いを「やっと、先輩たちの活動や運動が認められて素直に嬉しい。障害者である前に人間だということが認められて嬉しい。やっと、健常者といわれる人たちと同じ土俵に立って、対等な立場で話し合って一緒に社会を作っていける環境になっていくと思う。僕らも、もっと差別解消法のことを知って使っていって、みんなに伝えていくことが大事だなと気持ちが引き締まる思いです。まあとにかく、嬉しいです！」と書きました。

しかし、差別解消法がスタートして３ヶ月後に、津久井やまゆり園障害者殺傷事件が起きてしまいました。事件が起きるまでは、「これから、どのように社会が変わっていくのか」「たくさんの人に障害を理解してもらえる」と思っていました。このような事件が起き、良くなるどころかさらに、障害者にとって生きづらくなってしまいました。事件後は、電車に乗って外出をするのが怖かったことを覚えています。事件が起きてから、「なぜ、このような事件が起きたのか」「原因はどこにあるのか」とすごく考えました。また、津久井やまゆり園障害者殺傷事件についての集会に何回か参加しました。この集会に参加して、新たにわかったことがあります。それは、亡くなられた 19 名の方は、重度障害者の方だったと言われていましたが、十分な支援があれば、地域で暮らしていける知的障害者の方が多かったそうです。また、中には介助の手伝いをしていた利用者もおられたそうです。しかも、今ではこの事件の原因を全く別の問題にすり替えようとされています。事件のことも忘れ去られようとしています。

その中でも、ひとつだけ伝えたいことがあります。それは、健常者の方であれば「オカネの無駄！？それでも地域で生きたいんや！」と訴えていかなくても、地域であたりまえに生きていくことが出来ます。でも、障害者は「オカネの無駄！？それでも地域で生きたいんや！」と訴えていかないと地域で生きていくことが出来ません。私たち障害者にとって今の社会は、このように訴えていかないと、「地域であたりまえに生きていく」ことが出来ないのです。そうはさせないために私たちは、この事件を忘れ去られないように、事件の原因や問題についてたくさんの人に伝えていくこと、もう二度とこのような事件が起きないように、これ以上施設が増えないように、「地域で生きているんだ！生きていきたい！」と社会に訴えていく必要があります！そのためにも、5 月 13 日(土)に開催する CIL だんない 6 周年記念シンポジウムにたくさんの方に来ていただきたいです！

ジコジツゲン！

谷口健人

これからアパートを探して、だんない事務所の近くで自立生活を始めようとしています。

だんないで本格的に活動し始めて 2 年弱が経ちましたが、すごく死にたかった自分が今、「自立生活を始めようとしています」と書いているのだから、人って変わるものだなぁと思います。

僕が自立生活をしようという思いになったのには、障害当事者仲間の存在と、社会モデルの生き方を支えてくれる介助者の存在が大きいと思います。もし、だんないで自立（だんない的表現では「自己実現に向かう生き様」）に真剣に向き合う仲間に出会わなければ、自分の人生を生き続けようという思いには、なっていなかっただろうと思います。やっぱり、ちょっとおおげさかもしれないけれど、仲間がいるから今生き続けていられるし、介助者がいるから、自分らしい自分を目指すことができていると思っています。今日は何を食べようとか、何をどんなふうに飲もうかとか、服は何をどんなふうに着ようかとか、誰と会おうかとか…ひとつひとつが自分らしいなぁと思える暮らしが、少しずつできるようになってきました。

だんないで活動を続けていくなかで、全国のいろいろな障害仲間と出会えることも、今の自分のエネルギー源になっていると思います。

泊まりの研修で、ホテルの部屋で酒を飲みながら、女性へのプロポーズの練習とか、自立生活への思いを語り合って「30 歳になるまでに何かを成し遂げよう」とお互い誓いを立てたあの夜のことは、きっと忘れません。いや、忘れるかな？（笑）

今一番したいことは、アパートを借りて、自分の部屋を好きなロックバンドのポスターでいっぱいに飾ることです。いろいろやることは多いけれど、ひとつひとつ楽しみながら、自分らしく作っていけたらいいなぁ〜。

みんなと一緒に自分らしく

大橋早香

私は今年、大学の２回生になりました。１年間大学に通う中で、あることを実感することが多かったように思います。それは、必要な配慮があれば、親や先生がそばにいるような保護的な環境でなくても、みんなと一緒に学校生活は送ることができるということです。しかし、大学に入るまでの私の環境はそうではありませんでした。私は、小学校から中学校までは地域の学校に通っていました。その間、親が送り迎えをしてくれていました。特別支援学級と普通学級を行き来して、学校内ではほぼ先生が付きっきりでした。（私が通っていた頃は、学校のエレベーター等の設備も不十分でした。）そして、高校は養護学校に進学し、スクールバスで通学していましたが、バス停までは親が送ってくれていました。また、学校ではそれぞれのクラスに先生が２、３人いて「困っていないか？」とか「こういう時間だからこうしなさい」とか先生の方から声をかけられていました。このように、今までは保護的な環境の中で学校生活を送っていたと思います。

ところが、大学に進学すると 1 人で電車で通学したり、どの講義でもみんなと同じ教室で一緒に受けたりして先生が付きっきりということはありません。先生･親が一緒にいない生活を送ることに対して、入学当初はすごく不安でした。「親がいないから 1 人で学校に行けないかも…」とか「通学の途中で困ったことが起きたら？」など 1 人で通学することが怖かったです。学校内の生活についても同じように思っていて、特に誰かに声をかけることは苦手意識が強かったです。しかし、いざ大学への通学や大学生活を始めてみると 2、3 日目にはそんな心配や不安はなくなってしまいました。通学については、自分の講義に合わせて乗りたい電車で大学へ行き、大学では先生よりも周りにいる学生や友達に協力してもらいながら生活を送っています。時には、自分から先生に対して必要な支援について話し合うこともあります。

これらのことは一見すると当たり前のことですが、大学に行く前の私にはできなかったことです。そして、大学へ進学し、設備はもちろんのこと試験や授業に必要な配慮があれば、健常者と分けられなくても授業を受けたり学校生活を送ったりすることができるということを実感しました。このことは、教育の場だけに限られたことではないと思います。やはり、社会全体に言えることではないでしょうか？私は大学に進学しこれまでの保護的な環境と違った環境で生活してきて改めてそう思います。だから、自分だけでなく他の障害のある人たちにも必要な配慮があれば、保護的な環境以外でも自分らしく生きることができるということを知ってもらいたいです。私たちは保護の対象ではない。もっと、自分の意思を自分の言葉で発信しようと伝えていきたいです。そのために、私はこれからも活動を続けます。

活動報告

日付	内容	参加者
3月1日	長浜社会福祉協議会　打ち合わせ	美濃部
2日	ピア・カウンセリング講座 in 愛光園	美濃部　小里
3日	JIL 関西ブロック研修会 in 大阪第2ビル	美濃部　小里　谷口
4日	共生共育をめざす滋賀連格会 in ピアザ淡海	美濃部　小里　大橋
	障害者の権利擁護～成年後見制度の活用～ in 大津市 ふれあいプラザ	谷口
7日	生誕祭	
8日	長浜社会福祉協議会研修会	美濃部
	企画会議	
9日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 県条例検討プロジェクト	美濃部
10日	滋賀県社会福祉課提言提出	美濃部
11～12日	喀痰吸引研修　地域で暮らしたい自分	頼尊　高橋
12日	北部地域障害者ネットワーク ワークショップ in タウンホーム	美濃部　小里　谷口　大橋
14日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
	高田教区　講演	頼尊
	ピア・カウンセリング委員会 in かぼちゃランド	美濃部　小里
15～16日	奥羽教区　講演	頼尊
16日	代理投票訴訟　提訴日	谷口
18日	国際障害者年連続シンポジウム in 京都テルサ	美濃部　小里　谷口
	スクラム公開学習会　障害者が働く in 大阪府障がい者社会参加促進センター	大橋
19～21日	障害学会　九州部会　発表 in 九州看護大学	頼尊
19日	手話言語フォーラム in ピアザ淡海	美濃部　小里　谷口　大橋
21日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポート推進委員会 in 長浜市役所	美濃部
	枚方市事業者協議会　講演	頼尊
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 全体会議	美濃部　小里　谷口　大橋
23日	共生推進検討会議 in 県庁	美濃部　谷口　大橋
24日	米原権利擁護センター運営委員会 in ゆめホール	美濃部
26日	北部地域障害者ネットワーク会議	
	まちづくりシンポジウム in 臨湖	小里　谷口
28～30日	ピア・カウンセリング長期講座 in しあわせの村	谷口
28日	DPI 女性ネット「今こそ優生手術からの人権回復をめざして 日弁連意見書を生かすために」in 参議院議員会館	頼尊
	「障害」によって分け隔てられない社会に向けて障害者差別 解消 NGO ガイドライン作成プロジェクト 第3回成果報告会 in 参議院議員会館	頼尊

29日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会　事務局会議	美濃部
4月2日	ピープルファースト京都　花見 in 京都	美濃部　小里　大橋
4日	世界自閉症啓発デー　映画上映＆ニミトーク in 高槻市立生涯学習センター	頼尊
6日	求人配り in 湖北フレンドマート	小里　谷口
10日	バリアフリー調査＆花見 in 豊公園	
11日	企画会議	
13日	長浜米原自立支援協議会事務局会議 in 長浜市役所	美濃部
	代理投票会議	頼尊
14日	JIL 関西ブロック　ヤング委員会会議&交流会 in だんない	
20日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	美濃部
21日	初耳学 in オスカードリームホール	小里
	中日新聞取材（だんないシンポジウム）	
22日	障大連第 24 回総会 in すみのえ舞昆ホール	美濃部　谷口　大橋
23日	神経筋疾患ネットワーク in ハートピア京都	美濃部　小里　谷口　大橋
24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
25～26日	代理投票会議	頼尊
26日	滋賀夕刊取材（だんないシンポジウム）	
27日	高月民生委員 in 支所	美濃部

コラム

ヨリの雑記帳（２９）

世の中が焦臭（きなくさ）い。とにかく、このことはボクだけではなく、多くの読者の方々も、「同感！」と言ってくださる方も少なくないだろう。

「戦争が来ると、子ども、障害者、高齢者、女性…が犠牲になる。」と言われて久しい。ボク自身、ある意味でビクビクしながら、日々を過ごしている。東京の地下鉄が止まったり、新幹線が止まったりする今、ボクたちは何をすべきか。秋元某氏の曲で「僕たちは戦わない」という曲が、約２年前に発表された。振り返れば、あれからたった２年しか経っていないんだと、改めて驚く。

この２年間で何が変わってしまったのだろうか。EU 離脱問題など、保護主義国家が蔓延し、世界の国々、あるいは人々が共に生きようとする努力が希薄になってきている。自己中心的な思想が、急速に広がってきている。

そのような中、ボクたちは、どのようにして「戦わない」を選ぶことが出来るのか。語呂合わせのように現状を書くと「戦わないということを主張する闘争」といえるだろう。ここには「タタカウ／アラソウ」という意味の漢字が３つ（戦・闘・争）ならんでいる。だから、「戦わないということを主張する闘争」という文章自体が日本語としての体を作していない。だけど、こんな文句を言わざるを得ない現状がある。

様々な人々が共に生きる世界を目指す。言うことはたやすい。だが、そのような世界観を念頭に持ちつつ、いかなる社会を創っていこうかと考え、実行していくことは極めて難しいことであると思われがちである。

ただ、落ち着いて物事を考えると――例えば、バリアフリーな世の中にするとか、分け隔てのない学校教育制度を創るとか、人々が働きやすいインクルーシブな職場環境を作るとか――、どのようにすると国民ひとり一人が幸福であると思えるような社会を形成していこうと思うこと、またその思いに従って行動することが、平和な世の中につながっていくのではないか。そのように考えると、「戦わないという闘い」は、同じ「タカカイ」という意味の漢字を用いるが、その中身や行動は本質的に異なると言わねばならないだろう。

バリアフリー、インクルーシブと横文字が続くが、これらが示している社会づくりの本質は、昔から障害者運動の先輩方が主張してこられた社会観なのではないだろうか。そのように考えると、ＣＩＬ運動はある一定の意味において、非戦・平和を目指す運動体のひとつとも言えるのではないか。

自分自身の利害を超えて、共に生きていこうとする世界を創造する。このことは、たんに「想像」することのみを指すのではない。「創造」するのである。これも、おなじ「ソウゾウ」だが、「共生を想像することから、社会の創造へ」という行動が伴っていないと結実しないだろう。

共に生きようと試みること。このことは、言うがたやすいが、行動にあらわし、具体像を示すことは、容易ではない。難しい課題であるとつくづく思う。だが、そのような地道な闘いを忘れたときに、戦いの靴音が鳴り響くのであろう。

私ごとであるが、今回「も」、ボクは編集締め切り時間というハードルとの「タタカイ」を制した。さて、入浴し、一息ついたら、「だんないの道３０号」を印刷するとするか！

（よりたか　つねのぶ）

NPO 法人 CIL だんない　　〒529-0423
代表　美濃部裕道、副代表　市川正太　　滋賀県長浜市木之本町千田６８１番４
事務局長　頼尊恒信、理事　横山卓馬　　TEL　：　０７４９－５０－３６３９
URL：www.ab.auone-net.jp/~dannai　　FAX　：　０７４９－５０－３９６１
E-mail：　dannai@ae.auone-net.jp
郵便振替口座番号：ゆうちょ銀行木之本支店　00940-2-209115
加入者名　　：NPO 法人 CIL だんない